

保育目標

- ・ 食べることを楽しみ、食事を楽しみあう
- ・ 心と心が通いあう挨拶をする（『おはよう』『さよなら』『ありがとう』『ごめんなさい』等）
- ・ 行事の数を最小限に抑え、行事に追われない保育をする
- ・ 自然の移り変わり(四季)を十分に味わう(城山登山・散歩・園庭の木々等)
- ・ 地域との関わりを大切にする。(職場訪問・遠足・JR赤間駅・城ヶ谷区福祉会・高齢者との関り)
- ・ 思いやりの心を育てる(異年齢児保育)
- ・ 思いやりの心を育てる(異年齢児保育)
- ・ 素直に自分の気持ちが言える子どもにする

クラス担任の評価

0歳児—毎月新入児があったが、在園児との関わりを大切にしていたので、新入児の慣らし保育がゆっくりとでき、落ち着いて過ごせた

一年を通して戸外遊びや散歩など日光や外気に触れる機会を多く持てた

身の回りのことを進んでする姿が多く見られ、褒められるととても喜んでいる

除去食の子に誤食をしてしまい、二度と繰り返さないように」気をつけていく

1歳児—新入児が多いスタートで、泣き声の毎日だったが、少しずつ担任や新しい環境に慣れ、笑顔で登園できるようになった

噛みつきなどトラブルになることが多かったが、保育士を介しながら自分の気持ちが少しずつ示せるようになった。その都度保護者に伝えていった

行事や新しいことに意欲的に取り組みそれが自信となり、言葉が増えたり排泄や身の回りしたことにも楽しく取り組んでいる

2歳児—新しい取り組みに意欲的に取り組む子、「できない」とすぐ諦めてしまう子飼って、個別で指導したり、前向きな声掛けをを繰り返すことでやる気がましたよう感じる

着脱や排泄など身の回りすることが自分でできるようになった

行動の前に約束事を伝えることにより、保育士の話を最後まできき、行動できるようになった

3歳児—発達に差があるクラスだったので、全体での指示が通らない時は個別で伝えていった。

様々な遊びや行事を通して友達と協力したり、一緒に楽しんだりすることで関係を深め広げていった。

一年を通して自分の思いを言えたり、友だち同士で会話を楽しみながら過ごせていた

新しいことに挑戦したり、約束をして怪我なく過ごし、身の回りすることを丁寧に取り組んだ

4歳児—約束やルールを繰り返し伝えたり、問いかけながら、ども達自身考えて守れるようにしてきた
少しずつ人の話を聞く時は静かにしたり、返事をする姿が多くなった

グループでの話しあいやクラス全体の話し合いの場を設けて、思いを伝えたり。友だちの意見を聞く経験ができようにした。積極的に話を進める子、少しずつ意見が言えるようになった子と個人差はあるが一人ひとりの成長が見られた

5歳児—進級当初は自分のことで精一杯な姿、クラスの友だち同士の関わりが主だったが、生活に慣れるにつれ年下の子をリードする姿、周囲に目を向ける姿が見られるようになった。

今までとは異なる行事の取り組み方を子ども達と話し合いながら進め気持ちを合わせていった

クラスの改善引き継ぎ事項

- 0歳児—除去食は全職員で共有し、提供時の確認を怠らないように声掛けを必ずし、誤食がないようにする。保護者と話し合いの場を持ち共通理解を持つようにする
日々給食室と話をし、食事の量や大きさ、形態など調節でき良かった
- 1歳児—食事のマナーについて保護者に話しているが、スプーンの持ち方、椅子の座り方が良くなれない子もいるため引き続き伝えていく
- 2歳児—ハサミの体験ができていない。糊貼りはまだまだ難しい。
箸を使うことを重視したので握り箸の子もいるので家庭との連携必要
- 3歳児—個別の対応が大切で、その子にあった関わり方を情報共有をしていく
箸の持ち方、食事のマナー、排便の後始末等、家庭との連携が必要
- 4歳児—運動会や発表会では異年齢児合同で行ったことで、他のクラスとの関わりが増えた
- 5歳児—鉛筆の持ち方が安定しない子がいたため、持ち方グリップを使用した。そのうち正しい持ち方ができるようになり、グリップを使用せずに正しく持てる子が増えている

クラス担任以外の評価

- ・5月にはコロナ、2月にはインフルエンザが流行し、感染予防対策は日頃から行っていたが完全に予防できなかったことで、改めて命の大切さを感じ早めの対応の大切さを感じた。
- ・ICT導入で保護者連絡など便利になった。負担なく導入を進めていく事ができた
- ・アレルギーの子に誤食をしたことで、二度と起こしてはいけないことを肝に銘じて、情報共有をしっかりと事故がないように務める
- ・様々なマニュアルを見直し、作成できた
- ・職員確保が年度内にできたが途中入所を受け入れたが退園も多かく、定員に満たなかった。
- ・保護者の知りたいレシピや作り方を給食だよりに掲載することができた

クラス担任以外の改善引き継ぎ事項

- ・アレルギーに関して全員で確認しあい事故が起こらないようする
- ・コドモンやホームページを活用して保護者に保育園のことを上手く伝えていく
- ・第三者評価を受けるに当たり。もう一度保育の見直し、確認を職員全員でし、共通理解を深める
- ・細かなことも話し合い、園児、職員確保につなげ、余裕のある園運営につなげる